

2012 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	コリア研究センター
研究センター長名	勝村誠

I. 研究実績の概要（公開項目）

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究センター設置時における研究計画書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

①RICKS月例研究会：

【第47回 朴晋雨氏】

2012年4月18日、朴晋雨氏（立命館大学政策科学部客員教授／韓国・淑明女子大学校日文学科教授）が「韓国からみた昭和天皇の戦争責任」を報告した。韓国における日本研究の中で独自の研究領域を構築した朴晋雨氏による本報告は、戦後直後から最近までにいる、さまざまな世論調査及び新聞報道などを通じて、日本と韓国の一般市民が持つ天皇制認識を現代史の流れに沿って明らかにした内容であった。天皇制認識にとどまらず、日韓間における歴史理解・認識を分析できる意味において、有効な学術討論が行われた。

【第48回 張完翼氏】

2012年5月23日、第48回月例研究会で張完翼氏（韓国・弁護士）が「韓国における『日帝強制動員被害財団』設立問題」（学而館第2研究会室）について報告した。植民地期日本による強制労働・軍事動員被害者をサポートしていくための財団が韓国で作られようとしている。しかし、そのプロセスは、歴史・政治・社会など、さまざまな葛藤に影響され、決して容易ではない。その問題を、歴史と現在日韓両社会の民主主義の観点から、解決に向かっての道を探る報告であった。

【第49回 都珍淳氏】

2012年6月20日、第49回月例研究会で都珍淳氏（韓国・昌原大教授／国際日本文化研究センター招聘教授）が「戦争の記憶、記憶の忘却、そして平和：日清・日露戦争を中心に」（学而館第2研究会室）について報告した。日清・日露戦争の実際の戦場となった朝鮮半島と、ロシア・中国・日本など、関連地域をめぐり、両戦争が現在も残している記憶を呼び起こし、そこから東アジアの平和の種を見つけ出すという報告内容は、とても示唆に富む報告であった。

【第50回 金東吉氏】

2012年7月18日、立命館大学政策科学研究科オープンリサーチとの共催で、第50回月例研究会を開催し、金東吉氏（北京大教授）による「スターリンの安保戦略と朝鮮戦争の起源」（洋洋館2階955教室）という研究報告が行われた。ロシアに所蔵されており、ほとんど外部に公開されることのなかった、資料に基づいた報告を通じて、当時の国際情勢の中でソ連、スターリンがどのような意図をもって朝鮮戦争に関わっていたのかを明らかにする内容で、とても示唆に富む報告であった。

【第51回 石川亮太氏】

2012年10月12日、第51回月例研究会で石川亮太氏（本学経営学部准教授）が「朝鮮開港期における華商の内地通商活動—同順泰資料を通じて」（学而館第2研究会室）について報告した。19世紀末の朝鮮における華僑商人については、資料の乏しさから研究が非常に少ない中、韓国・ソウル大学奎章閣に所蔵されている同順泰という商団の資料を用いて、当時、朝鮮半島のほぼ全域にわたって商業活動を営んでいた華商の活動を明らかにした。なお、同時期、朝鮮に進出していた日本人商人と、在来の朝鮮人商人との相互関係まで知ることができ、19世紀末朝鮮半島における東アジア交易の様子がリアルに伝った。

【第52回 卡恩眞氏】

2012年11月21日、第52回 RiCKs 月例研究会で卞恩眞氏(立命館大学衣笠総合研究機構客員研究員)が「日帝末(1937~1945)、秘密結社運動と朝鮮民族解放協働党」について報告した。植民地末期かつ戦時期である時期に、朝鮮の青年たちが当時の現状をどのように認識し、またそれをどのように打開しようとしたのかについて、表立った歴史より、今まであまり知られてこなかった、秘密結社や落書きといった水面下の多様な動きを知る貴重なきっかけとなった。

【第53回 金山勉氏】

2012年12月12日、第53回 RiCKs 月例研究会で金山勉氏(立命館大学産業社会学部教授)が「日韓の市民メディアを取り巻く状況を概観・比較する」について報告した。現代日韓社会において、テレビや新聞などの従来の大手メディアだけではなく、「パブリック・アクセス」や市民によるオルタナティブ・メディアもメディアとしての機能を果たしつつあること、それが社会に及ぼす影響や市民の認識などを日韓比較の観点から語る内容となり、メディア批判にとどまらず、新しい可能性や展望も含む積極的な議論となった。

【第54回 崔正勲氏】

2013年1月16日、第54回 RiCKs 月例研究会で崔正勲氏(立命館大学国際関係学部博士後期課程)が「冷戦崩壊後における朝鮮半島核危機の発生についての考察~ディフェンシブ・リアリズムの観点から」について報告した。朝鮮半島における核危機を「ディフェンシブ・リアリズム」という政治社会学的観点から見た際、どのような分析結果になるのかについて議論し、現在の東アジアにおける核/原発問題にいたるまで幅広く議論することができた。

②国際シンポジウム:

【日中韓国際学術会議「金正恩体制の公式出帆と北朝鮮の対外関係」】

2012年4月25日、東国大北韓学研究所、吉林大学東北アジア研究院との共催で、日中韓国際学術会議「金正恩体制の公式出帆と北朝鮮の対外関係」(於東国大学社会科学館先端講義室)で開催し、RiCKsの中戸祐夫教授が、「金正恩体制下での北朝鮮の対外行動—北朝鮮の『人工衛星』発射からみる米朝関係—」を報告、徐勝教授が挨拶・司会及びコメンテーターをつとめたほか、総田芳憲氏(北九州市立大学外国語学部国際関係学科准教授)がコメンテーターをつとめた。朝鮮民主主義人民共和国の体制転換に伴う、東アジアの国際関係や安全保障の行方を展望する場となり、とくに東アジアの安全保障を論じる際に欠かせない、中国の参加者も一緒に議論することによって、従来の日韓の二国間における議論の質と幅を深めることができた。

【国際シンポジウム「海外コリアンの民族文化と統一意識—新しい“統合”モデルに関する人文的省察—」】

2012年11月10日、立命館大学コリア研究センター・朝鮮大学校朝鮮問題研究センター・建国大学校統一人文研究団の共催で朝鮮大学校朝鮮問題研究センター設立1周年記念の国際シンポジウム「海外コリアンの民族文化と統一意識—新しい“統合”モデルに関する人文的省察—」(於東京都小平市所在の朝鮮大学校記念館講堂)が行われた。RiCKsと学術交流協定を締結した両機関との初めてのシンポジウムである上、在日朝鮮人の大学である朝鮮大学校が韓国と日本の大学と共同でシンポジウムを開くこと自体が初めてであったため、共催した3大学だけでなく、韓国と日本の韓国学研究全般においても非常に意義のあるシンポジウムとなった。報告内容も歴史、芸術、教育、民族アイデンティティなど、多岐にわたっており、多方面から「海外コリアンの民族文化と統一意識」を議論する貴重な場となった。参加者も百人を超える大盛況となった。今後の3機関による共同研究に内外から期待と注目が集められている。

【国際シンポジウム「植民地期の韓国映画と日本映画の交流について」】

2013年3月2日、JSPS 二国間交流共同研究 The Study of Film Exchanges between Korea & Japan during the Colonial Period、立命館大学アート・リサーチセンター、立命館大学コリア研究センター、立命館大学・研究の国際化推進プログラムとの共催で国際シンポジウム「植民地期の韓国映画と日本映画の交流について」(於立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム)が開かれた。映画を題材に、映画館外の映画、映画産業・映画人、スタイルと表象の3部に分け、植民地朝鮮の文化、植民地宗主国である日本と被植民地の朝鮮の間における「交流」を10本の研究報告を通じて深く議論し合う場となった。

③RiCKS次世代研究者フォーラム:

2012年8月2日～4日にかけて、第7回RiCKS次世代研究者フォーラムを、2012年度に発足した京都コリア学コンソーシアムとの共催で、「東アジアの中の日本と朝鮮半島 PART2」を開催した。特に、黄尚翼教授の特別講演「解放以降、北へ渡った医師たち」と、尹健次教授の基調講演「在日朝鮮人を考える—過去・現在・未来」は、その後の若手研究者の議論を豊かにする土台を作ってくれた。

個別報告を各分野別にみると、在日朝鮮人関連—金泰植「韓国のナショナリズムと在日朝鮮人」、ハーディング・アンドリュース「在日朝鮮人の『監視』と政治家—梁石日の『夜をかけて』の例」、羅智英「在日朝鮮人の歴史的トラウマの様相とその特徴」、朝鮮近現代史関連—李明學「京城府の戦略的歳出運営と特徴」、鄭忠實「1920～30年代、東京と京城における映画観覧」、魯相豪「日本植民地帝国の中の文化ネットワーク」、崔圭鎮「解放以降、韓国人の疾病及び死亡要因の変化」、李善英「植民地朝鮮における言語政策とナショナリズム」、ジェンダー関連—朴瓊銀「19世紀末～20世紀初、釜山・シンガポールのからゆきさんの流入と日本遊郭の形成」、古橋綾「日本軍『慰安婦』制度と男性性—元日本軍将兵による戦争体験記に着目して」、文学研究—李承垠「朝鮮王朝後期の野談に登場する怪談研究」、文化・社会学関連—崔明淑「超国家的ネットワークの形成と政治過程—『日本軍慰安婦』問題解決のための市民団体を中心に」、朴姪姫「メロドラマからみる韓国社会と『恋愛』」、政治学関連—生駒智一「大統領と与党との関係から見る韓国政治」と、15本の多様な報告が行われた。

このように、コリア学関連の幅広い研究報告と学術交流をすることができ、今後の日韓両国、ひいては諸外国のコリア学を専攻とする若手研究者同士の交流と、コリア学自体の発展に向かった、大きな一歩となった。

④『コリア研究』第4号発行:

第4号は、特集「京都と朝鮮—近代以降に京都に来た朝鮮人たち」をはじめとし、京都コリア学コンソーシアム発足の紹介、投稿論文、朝鮮民主主義人民共和国の社会学の研究動向、韓国の論文の翻訳紹介、寄稿2本、韓国の新刊紹介（政治・経済・歴史・社会・文学）などから構成されている。特集には関連研究者のみならず、まさに近現代京都を生きた在日朝鮮人による論文も含まれており、大きな特徴となっている。また、3本の投稿論文のうち2本は2012年度の次世代研究者フォーラムへの参加者からで、韓国の論文の翻訳紹介もセンター主催の研究会で報告した韓国研究者によるものである。このように従来からセンターと学術交流を行ってきたメンバーらが文章を寄せる、紀要としてふさわしい性格を年々強くしているところに大きな意義がある。

⑤その他:

【「JAM DOCU 江汀」上映会・監督トーク】

2012年5月11日、済州四・三を考える会・大阪との共催で、「JAM DOCU 江汀」上映会・監督トークを開催した（於立命館大学朱雀キャンパス大講義室）。平日にもかかわらず、立命館大学の学生・教員をはじめとする、一般市民ら100名を超える観客と一緒に映画を観て、ヤン・ドンギョ監督のトークを聞き、済州の新海軍基地建設と地元住民の反対をキーワードに、東アジアの安全保障と平和について考えることができた。これは地元住民の生活権という側面と、戦後直後の済州四・三事件との連続性という側面から接近できる問題である。

【「ロス暴動の真実—コリアタウンはなぜ襲われたか—」上映&学術討論会】

2012年6月25日、立命館大学政策科学研究科オープンリサーチとの共催で「ロス暴動の真実—コリアタウンはなぜ襲われたか—」上映&学術討論会（立命館大学洋洋館3階962教室）を開催した。30人を超える教室の中、映画を観て、ノンフィクション作家・高賛侑氏の事前解説と鑑賞後のトーク、質疑応答と議論を通じて、1992年に起きたロス暴動の、偏ったマスコミ報道などによって隠されてきた面、その後の経験者の内面などを知ることができた。あらためて、一つの社会を共に生きる、マイノリティ同士、またはマイノリティとマジョリティとの共生について真摯に考えるよいきっかけを得、民主主義の発展につながる議論ができた。

【『図録 植民地朝鮮に生きる 韓国・民族問題研究所所蔵資料から』（岩波書店）】

2012年9月、水野直樹・庵途由香・酒井裕美・勝村誠編『図録 植民地朝鮮に生きる 韓国・民族問題研究所所蔵資料から』（岩波書店）が出版された。同書は、2011年3月に立命館大学国際平和ミュージアムで開催された「韓国併合」100年特別展示展「巨大な監獄、植民地朝鮮に生きる」（立命館大学国際平和ミュージアム・立命館大学コア研究センター・民族問題研究所共催）を土台にしたもので、編者らが1年半かけて準備した力作である。普段みることのできない、植民地朝鮮の実態が、多様な視覚資料を通じて知ることができ、植民地期の朝鮮史を理解する上で、今後欠かせない文献となるだろう。

【RiCKS 特別研究会「旧ドイツ人が見た北朝鮮映画」】

2012年11月17日、立命館大学コア研究センターと立命館大学社会システム研究所アジア社会研究会との共催で、RiCKS 特別研究会「旧ドイツ人が見た北朝鮮映画」（於キャンパスプラザ京都 2階第2会議室）が開かれた。ドイツと朝鮮半島は、分断（東西／南北）という苦痛な経験を共有している。そのドイツの研究者に、北朝鮮社会と映画、そしてドイツとは違って未だに分断が続いている朝鮮半島がどのように映るのかについて、大きな関心が寄せられた。会場ではヨハネス・シューンヘル（Johannes Schonherr）氏の講演と、李香鎮（立教大学異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科教授）のコメントに質問も殺到し、成功裏に終わった。

【特別講座・姜萬吉氏講演「東アジア史の未来のために」】

2012年12月7日、立命館大学コア研究センター・立命館大学文学部キャンパスアジア・プログラムの共催で、立命館大学文学部キャンパスアジア・プログラム特別講座・姜萬吉氏講演「東アジア史の未来のために」（於立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホール）が開かれた。姜萬吉氏は韓国を代表する朝鮮近現代史研究者であり、「統一歴史学」を集大成した研究者として韓国はもちろん、朝鮮民主主義人民共和国や日本、アメリカなど海外コリアンからも大きな支持を得ている研究者である。一般市民や学生、教員、在日朝鮮人、韓国人、日本人など、多様な聴取を前にして、韓国という一國史ではなく、東アジア史の観点から語る、日韓関係、朝鮮半島と在日朝鮮人の現在と展望は参加者全員の胸に深く残るものであった。

【合同セミナー「国際的視角からの韓国近現代史」】

2012年12月21日、立命館大学コア研究センター・経営学部研究基盤強化委員会・社会システム研究所アジア社会研究会の共催で、合同セミナー「国際的視角からの韓国近現代史」（於立命館大学BKC エポック立命 21 K308）が開かれた。韓国・ソウル大学から2名の研究者を招へいし、「近代韓国における空間構造の再編と植民地雑居空間の成立」（朴俊炯）、「アメリカの援助と韓国の繊維産業」（柳尚潤）の研究報告が行われた。19世紀末の開港期から植民地初期にかけての空間形成、そして解放／敗戦の韓米関係という両研究テーマとも、日韓の韓国学研究で多く行われていないため、日本の研究者にとってはよい刺激となり、報告者にとっては日本の関連研究者と学術交流ができる有意義な場となった。

II. 研究業績（公開項目）

1) 論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 佐々充昭「朝鮮近代における白頭山神聖観念の形成—大倭教系言論人の活動を中心に—」『韓国朝鮮の文化と社会』第11号、風響社、112～148頁（2012年10月）
2. 裴始美「雑誌『亜細亜公論』と朝鮮」『コア研究』第4号、（2013年3月）
3. 裴始美「戦前期早稲田大学の朝鮮人留学生に関する一試論—『スポーツ・社会学のパイオニア』李相佰を中心に—」『次世代アジア論集別冊（早稲田大学アジア研究機構）』（2013年3月）
4. 森類臣、「韓国メディア企業における資本調達および構造の一考察—『ハンギョレ』の「国民株方式」を事例に、」『マス・コミュニケーション研究』82号、日本マス・コミュニケーション学会、pp.211-230（2013年1月）

図書

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. 勝村誠, 「日韓自治体交流の現状と課題について—職員相互派遣の可能性の展望」, 『環東海レビュー』, 韓東大学校環東海経済文化研究所, 第8巻第1号, pp. 23~48, (2012年4月)
2. 勝村誠【論文翻訳】, 「植民地期の朝鮮アナキストによる共産主義批判2」, 『トスキナア』, 第15号, pp. 65~71, (2012年4月)
3. 桂島宣弘 『跨國界的歴史與東亜』台湾東亜文明研究学刊 9巻1号 pp. 215~231 (2012/6)
4. 倉田玲『混合診療保険給付外の原則に基づく健康保険法の解釈が合憲とされた事例』速報判例解説(新・判例解説Watch) 11号 pp19~22(2012/10)
5. 金山勉『新聞経営モデルと決別せよ』メディア展望 605号 pp37(2012年5月)
6. 金山勉『NYTの伸び顕著—米の新聞雑誌部数調査』メディア展望 606号 pp29(2012年6月)
7. 金山勉『老舗NBCがスポーツ・ラジオ局開局へ』メディア展望 607号 pp17(2012年7月)
8. 金山勉『米社が新番組宣伝効果の計測法を開発』メディア展望 608号 pp17(2012年8月)
9. 勝村誠, 朴美淑, 「日韓自治体交流の効果検証と今後の方向性について—城陽市と慶山市の中学生相互派遣事業を手がかりに」, 『政策科学』, 20巻2号, pp. 135-146 (2013年3月)
10. 中戸祐夫, 「Costs and Benefits of Korean Unification for Japan: Political and Economic Perspectives, Korean Peninsula Division/Unification: From the International Perspective」, Korea Institute for National Unification, pp. 141-159(2012年12月)
11. 李康国, 「The Political Economy of Global Imbalances and the Global Financial Crisis, in Crises of Global Economies and the Future of Capitalism: Reviving Marxian Crisis Theory」, Routledge, pp. 254-271, (2012年12月)
12. 倉田玲, 「定数削減条項の適用除外規定——平等保護の限界と普通選挙の例外」, 法学新報, 119巻9・10号, pp. 275-315, (2013年3月)
13. 金山勉, 「Sフォン普及で米選挙戦略に変化」, メディア展望, 611号, pp 34, (2012年11月)
14. 金山勉, 「海外メディア事情: 大統領選挙とメディア変容」, 月刊民放, pp38-39, (2012年11月)
15. 金山勉, 「オバマ陣営、独自の広告戦略が奏功」, メディア展望, 612号, pp20, (2012年12月)
16. 金山勉, 「米、複数メディア所有規制に緩和の動き」, メディア展望, 613号, pp33, (2013年1月)
17. 金山勉, 「海外メディア事情: 所有規制緩和実現なるか」, 月刊民放, pp28-29, (2013年2月)
18. 金山勉, 「米のオールドメディアが底堅さ」, メディア展望, 614号, pp21, (2013年2月)
19. 石川亮太, 「인천을 둘러싼 러시아 정기항로 구축과 화교 상인 -대한제국 시기를 중심으로- (仁川をめぐるロシア定期航路構築と華僑商人-大韓帝国時期を中心に)」*韓国語, 仁川文化研究(仁川: 仁川広域市立博物館), 9号, pp19-79, (2012年12月)

図書

1. Kangkook Lee, "Changes of Emerging Market Countries, in Changes of the Global Economy after the Global Financial Crisis" edited by Park. B. et al, Korea Institute for International Economic Policy (KIEP). (2012, Korean)
2. 庵途由香監訳, 『日本の朝鮮植民地支配と植民地的近代』, 明石書店, (2012年)
3. 森類臣共訳(共訳者: 川瀬俊司), 『不屈のハンギョレ新聞』, 現代人文社, (2012年)
4. 文京洙ほか「危機の時代の市民活動」編集委員会『危機の時代の市民活動—日韓「社会的企業」最前線』, 東方出版, (2012)
5. 鄭雅英ほか「在日済州人の生活誌を記録する会」『在日済州人の生活誌1 安住の地を探して』, ソニン, 2012年(韓国語)
6. 倉田玲(市川正人・倉田原志編), 『「平等—子どもを仕分ける法律の限界」「外国人の人権—政治献金一切禁

- 止の不思議」市川正人・倉田原志（編）『憲法入門——憲法原理とその実現』, 法律文化社, pp. 24~35, 97~110, (2012年)
7. 勝村誠、庵逄由香『図録 植民地朝鮮に生きる』岩波書店 (2012年9月27日)
8. 秋葉武『協同組合を学ぶ』日本経済評論社 pp. 119~140 (2012年5月)
9. 文京洙『新自由主義に揺れるグローバル・サウス』松下冽・藤田和子編、ミネルバ書房、最終章「戦後日韓関係と市民社会の課題」352-368頁を分担執筆 (2012年10月20日)
10. 庵逄由香、『地域社会から見る帝国日本と植民地 朝鮮・台湾・満洲』, 思文閣出版, 34-52p 担当. (2013年3月)
11. 佐々充昭, 『世界宗教百科事典』「8. 韓国の宗教」における「甌山系教団」「大巡真理会」「大倥教(檀君教)」「円仏教」「鄭鑑録信仰」の5項目, 世界宗教百科事典編集委員会編, 丸善出版, 462-463, 464-465, 466-467, 468-469, 472-473p 担当, (2012年12月)
12. 文京洙, 「戦後在日朝鮮人の生活と日本社会」安田常雄編『社会の境界を生きる人びと 戦後日本の縁 シリーズ戦後日本社会の歴史4』岩波書店、(2013年3月)
13. 裴始美編『在日朝鮮人留学生資料1, 2, 3 (在日朝鮮人資料叢書⑥)』緑陰書房、(2012年12月)

2) 学会発表

①海外での発表

1. 桂島宣弘「明清王朝交替と東アジアの思想史」東アジア文化交渉学会第四回国際学術大会、韓国ソウル市、高麗大学校、2012年5月12日
2. 佐々充昭「東亜三国の国教創設運動と儒教的近代宗教化」『2012 東亜儒学国際学術研討会』主催：中国上海師範大学哲学学院・国際儒学院、於中国上海師範大学（『2012 東亜儒学国際学術研討会論文集』に中国語報告論文を掲載）2012年9月15・16日
3. 石川亮太、「朝鮮保護国期（1905-10）の華商と貿易活動：駐韓領事館「商務報告」から」、海洋史研究工作坊（2）口岸与海外華人、中央研究院人文社会科学研究中心（台湾台北市）※主催者・場所同じ、2012年9月27日
4. 裴始美, 「일제말기 조선인 가미카제 특공대원에 대한 기억 (日帝末期、朝鮮人カミカゼ特攻隊員に関する記憶)」, 韓国・仁荷大学校韓国学研究所・東北アジア歴史財団「東アジアの戦争の記憶、トラウマを超えて」韓国・仁荷大学, 2012年7月13日
5. 中戸祐夫, 「퍼블릭 외교적 수단으로서의 한류가 한일 관계에 미치는 영향」, 한반도 통일을 위한 재일동포사회의 역할, 2012年11月14日
6. 中戸祐夫, 「Japanese Strategies for Peace Building on the Korean Peninsula and Northeast Asia: Responsive Engagement toward North Korea」Strategies for Peace Building on the Korean Peninsula and Northeast Asia, 2012年11月30日
7. 李康国, 「Foreign Banks and Financial Development in Developing Countries」, International Conference on the Current Economic Studies, 2012年12月27日
8. 石川亮太, 「Comment for the Session 1: A Comparative Perspective from Colonial Korea」, International Workshop "Variety of Commodity in History: Social Dynamism, Networks and Colonialism", 2013年3月26日
9. 石川亮太, 「제국의 인프라와 인천 화상 -러일전쟁 전후를 중심으로- (帝国のインフラストラクチャーと仁川華商一日露戦争前後を中心に -)」, 2012 한·러 국제학술회의 - 한·러 교류의 어제와 오늘, 그리고 인천의 역할 (2012 韓露國際學術會議 - 韓露交流の昨日と今日、そして仁川の役割), 2012年11月2日

②国内での発表

1. 桂島宣弘「トランスナショナル・ヒストリーの可能性」(基調講演) 韓国日本思想史学会第30回大会、2012年7月7日
2. 庵逄由香「朝鮮における帝国在郷軍人会」サハリン・樺太史研究会 第22回例会「植民地社会の比較史」2012年8月19日
3. 庵逄由香「書評：外村大『朝鮮人強制連行』(岩波書店、2012年)」2012年度日本近現代史サマーセミナー2012年9月2日

4. 秋葉武「韓国の市民社会と協同組合」協同組合研究会 2012年5月21日
5. 秋葉武「日本の共済——その特徴と課題——」第5回労働者共済運動研究会 2012年6月6日
6. 秋葉武「生協と産地の地域再生——事業連帯の可能性——」くらしと協同の研究所 総会シンポジウム 2012年6月30日
7. 石川亮太「20世紀初の東アジア広域市場と朝鮮華商—辛亥革命時「上海恐慌」への対応から—」、朝鮮史研究会 関西部会7月例会、河合塾大阪校（大阪市北区）、2012年7月28日
8. 石川亮太「朝鮮開港期における華商の内地通商活動—同順泰資料を通じて」第51回月例研究会、2012年10月12日
9. 石川亮太「朝鮮開港期における華商の内地通商活動—同順泰資料を通じて」、神戸華僑華人研究会 10月例会、KCCビル（神戸市中央区）、2012年10月20日
10. 裴始美、「今問われる朝鮮人『特攻隊員』の問題」日韓相互歴史認識研究会第15回学術会議、鹿児島、2012年8月20日
11. 森類臣、「『翻訳』を通して読み解く韓国現代史—『희망으로 가는 길 : 한겨레 20년의 역사』の日本語翻訳・出版作業を通して—」、朝鮮語教育研究会第54回例会文化論分科会発表、2012年6月17日
12. 森類臣、「日本の主要新聞による『北朝鮮』認識についての研究—論調分析と日韓比較を通して—」、FCTメディア・リテラシー研究所6月フォーラム「鈴木みどりメディア・リテラシー研究基金」第5回助成者発表会、2012年6月30日
13. 桂島宣弘、「近世帝国の解体と徳川思想の動向」（基調講演）、韓国日本近代学会第26回大会、立命館大学、衣笠キャンパス、2012年11月10日
14. 鄭雅英、「中国朝鮮族の現状と課題」、朝鮮族研究学会 2012年度大会、大阪経済法科大学 東京麻布台セミナーハウス、2013年3月16日
15. 秋葉武、「韓国の社会的企業政治と市民社会」、日本NPO学会第15回年次大会、2013年3月19日
16. 裴始美「戦前期早稲田大学の朝鮮人留学生と『スポーツ・社会学のパイオニア』李相佰」早稲田大学アジア研究機構第10回国際シンポジウム「アジアの中の早稲田—経済成長の中、知のあり方を問う」（2012年11月10日、於早稲田大学）

3) 省庁、学会、財団などの表彰

1. 森類臣、ハンギョレ新聞社「功労賞」、2012年5月15日

4) 外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

1. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究 B (H24~26) (日本学術振興会)
「近現代日本社会における天皇制とスポーツ」、権学俊（代表）計442万円
2. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究 B (H24~26) 「戦跡の歴史社会学—地域の記憶とツーリズムの相互作用をめぐる比較メディア史的研究」、権学俊（研究分担者）
3. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究 B(海外学術調査) (H24~26) 「中国朝鮮族の移住労働における女性の役割と「トランスナショナルな家族」の研究、鄭雅英（代表）計377万円
4. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究 C (H22~26) (日本学術振興会)
「政治的流動化過程における日韓NPO」、秋葉武（代表）、計338万円
5. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究 C (H22~24) (日本学術振興会)
「朝鮮総動員体制」の構造分析のための基礎研究」、庵途由香（代表）、計300万円
6. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究 C (H22~24) (日本学術振興会)
「東アジア三国における近代的「民族」概念の創出と「民族主義」創成に関する比較研究」、佐々充昭（代表）、計416万円
7. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究 C (H23~25) (日本学術振興会)
「東アジアにおける翻訳語ネットワークの形成と近代学術知に関する思想史的研究」、桂島宣弘（代表）、計494万円

5) 特許

①出願

②取得

6) その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

②講演会

1. 徐勝, 「私の生—東アジアの平和のために」, 建国大学校統一人文科学研究団主催碩学招請講演, 建国大学校新千年館, 2012年4月26日
2. 佐々充昭「日本の“韓流”現象と在日コリアン」, 海外コリアンの民族文化と統一意識, 朝鮮大学校, 2012年11月10日
3. 秋葉武「NGOとステークホルダーの連携」, 外務省NGO研究会 公開シンポジウム「大学とNGOの連携」, 2013年2月20日
4. 石川亮太, 「書評: 李正熙著『朝鮮華僑と近代東アジア』京都大学学術出版会、2012年5月」, 朝鮮史研究会関西部会 2013年3月例会, 2013年3月23日
5. 石川亮太, 「仁川をめぐる華商ネットワークと日本帝国の拡大—日露戦争下の軍票現送問題を通じて」, 植民地都市科学研究会, 2013年3月16日
6. 石川亮太, 「20世紀初頭の仁川における日系銀行と華僑の関係」, 総括研究会「近代東アジア史をめぐる諸史料について」, 2013年3月15日
7. 石川亮太, 「書評: 李正熙著『朝鮮華僑と近代東アジア』京都大学学術出版会、2012年5月」, 神戸華僑華人研究会 2013年1月例会, 2013年1月12日
8. 石川亮太, 「『大日本水産会報告』『大日本水産会報』朝鮮関連記事について」, 科学研究費挑戦的萌芽研究「東アジアにおける中国海産物市場の形成とアイヌ社会」研究会, 2012年12月8日
9. 石川亮太, 「20世紀前半における漢江の水上交通——渡船を中心に」, 韓国・朝鮮文化研究会 43回研究例会, 2013年2月2日
10. 裴始美, 「朝鮮人特攻隊員の死をめぐって」, 京都自由大学, 2012年11月2日
11. 山下高行, 「International postgraduate and academic conference (Co-hosted by Ritsumeikan university and Chung-ang university)」 Prof. Kwang-Yeong Shin, Chung-Ang University, Economic Crisis and the Crisis of the Middle Class in Korea コメント, 立命館大学創思館カンファレンスルーム, 2013年2月27・28日

③その他

1. 裴始美, 死刑映画週間／アフタトーク韓国映画「私たちの幸せな時間」トーク, 京都にんじんの会, 京都シネマ, 2012年4月9日

以上